



# ラムサール条約湿地が拡張 ドライで2倍に登録認定

写真：自然再生事業で整備された加陽湿地

アラブ首長国連邦・ドバイでラムサール条約第13回締約国会議(COP13)が開かれ、ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」のエリアが拡張されました。10月23日には、同会議場で、環境省主催の登録認定証授与式が行われ、同条約事務局長のマルタ・ロハス・ウレーゴさんから中具市長に登録認定証が授与されました。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

## ラムサール条約とは？

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、世界的に重要な湿地を評価し、保全するための国際条約です。湿地とは、湿原や干潟、河川、田んぼなど、水のあるところです。ラムサール条約では、自然のものか、人工的なものかは関係ありません。

## なぜ条約湿地を拡張？

コウノトリが将来的に安定して繁殖するためには、重要な生息域を持続的に保全する必要がありますからです。

今回の拡張では、百合地や出石町伊豆巢塔周辺の水田、加陽湿地などを国指定鳥獣保護区・特別保護地区に指定登録。そして、当保護区等を含

む豊岡大橋から蓼川大橋までの円山川、円山川合流点から伊豆橋までの出石川534ヘクタールが新たに条約湿地として登録されました。拡張後の面積は1094ヘクタールになり、約2倍になりました。

## ラムサール条約三つの目的

- ① 保全・再生  
湿地にはたくさん生きものが生息し、生きものの命のゆりかごといわれています。人や生きものにとって重要な湿地を守ります。
- ② ワイズユース(賢明な利用)  
湿地の生態系を守りながら、そこから得られる恵みを持続的に賢く利用します。
- ③ 交流・学習  
湿地を保全し賢く利用するために、人々の交流や学習、参加、普及啓発を進めます。

生きもの  
いっぱい

## 田んぼ



「湿地」には、たくさん種類がありますが、日本で最大の湿地面積を占めるのは「田んぼ」です。米と同時に、カエルやアカトンボなど、さまざまな生きものも育む田んぼ。人にとっても、水辺に暮らす生きものにとっても、田んぼはとても大切な湿地です。

また、田んぼの周りには、水を引くための水路やため池があり、ナマズやフナなど、いろいろな魚たちも育んでいます。田んぼがなくなると、そうした生きものもいなくなる可能性があるので。

さて、皆さんは米が好きですか？ 米を食べることで田んぼが守られ、田んぼが守られることで生きものも守られます。

「ご飯、もう一杯」と、おかわりすることは「生きもの、いっぱい」につながっているのです。

# 地域から届いた喜びの声

## 野鳥の生息地保全に価値

六方田んぼ百合地・河谷地区は、春と秋の渡り鳥の中継地、越冬飛来する冬鳥たちの餌場です。そこから4 km南の伊豆地区周辺の田んぼにも多くの鳥が集まります。円山川の豊岡大橋から蓼川大橋の間では、水面ではカモ類が、河川敷では猛禽類や小型の冬鳥が餌場としてよく利用します。支流の出石川に造成された加陽湿地は、特に渡りのシギ・チドリの中継地として重要です。このたびのエリア拡張は、豊岡盆地を利用する多くの野鳥にとって生息地保全という大きな価値をもたらします。(NPO法人コウノトリ市民研究 理事 高橋 信さん)



## コウノトリを支える田んぼ

百合地には、野外で初めてコウノトリが巣立ち、野外で100羽目になったコウノトリが



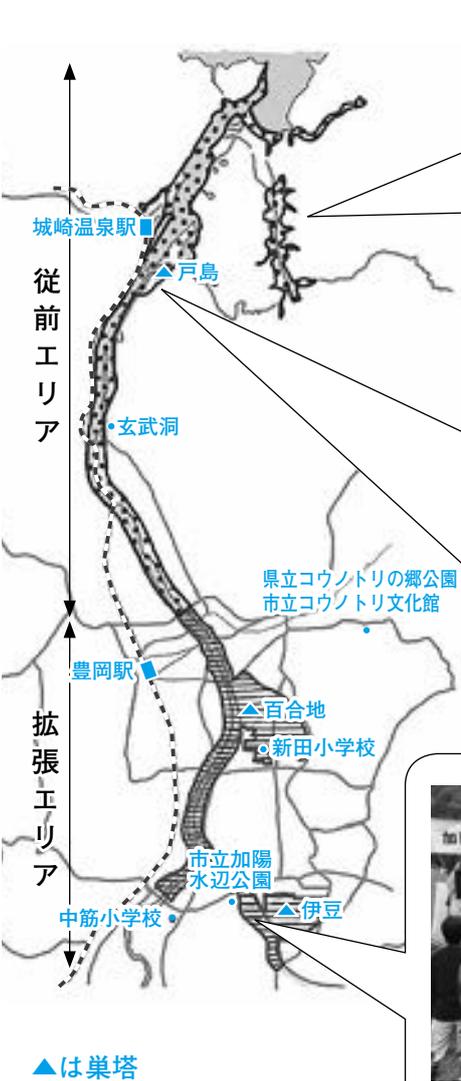
りが巣立った巣塔があります。そのコウノトリを支える田んぼがラムサール条約に登録されてとてもうれしいです。これからも、たくさんの生きものを育み、子どもたちに安心して米を食べてもらうために、コウノトリ育む農法で米作りをしながらコウノトリと一緒に暮らしていきたいです。(株百合地営農代表取締役 岡正さん)

## 加陽湿地は僕たちの自慢

中筋小学校は、毎年加陽湿地で生きもの調査をしています。今年も、たくさんの生きものが見つかりました。加陽湿地がラムサール条約に登録されて世界に認められたことは僕たちの自慢です。これからも中筋っ子の宝物を大切にします。たくさんの人に知ってもらって、自然を大切にすることを大切にしたいです。(中筋小5年 小西柇摩君)



## 《ラムサール条約湿地のエリアと主な取組み》



### 田結湿地

平成20(2008)年の春、コウノトリの飛来をきっかけに、休耕田を生かすための湿地として再生する活動が始まりました。地元の女性が湿地を案内する「案ガールズ」が組織され、地域の生物多様性を生かしたツーリズムが広がっています。



### ハチゴロウの戸島湿地

野生のコウノトリ「ハチゴロウ」が好んで舞降りた水田を湿地として整備。湿地内の人工巣塔では、平成20(2008)年から11年連続でひなが巣立っています。円山川下流域でのコウノトリの重要な繁殖拠点であり、ビジターセンターとしての役割を担っています。



### 加陽湿地

国土交通省の自然再生事業で整備された15ヘクタールの大規模湿地。地域と国と市が連携して湿地を管理しています。市立加陽水辺公園交流館では、毎週水曜日に農産物直売所(朝市)が開かれ「生きものにぎわい」と「地域のにぎわい」の両方を生み出しています。11月10日には、同条約湿地拡張記念イベントを開催しました。詳しくは、5ページをご覧ください。



2~3 今月のイチオシ

4~5 市政ニュース

6~13 クローズアップ 豊岡

14~21

くらしの情報

22~23

保健行事

24~25

図書館・つどいの広場

26~27

主な相談・主な行事